

# 銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号  
加藤金属興業株式会社

## ◎ 平成 30 年 5 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

5 月	7 日	～	790 円/Kg
5 月	14 日	～	800 円/Kg
5 月	23 日	～	810 円/Kg
5 月	29 日	～	790 円/kg

平成 30 年 5 月度は平均で 797.80 円/kg となり、前月比 19.30 円/kg の値上りとなりました。

### 海外銅価の動き

- ① 5 月の LME 銅相場 5/1 ～ 5/30 (安値ドル 6,722.00～6,931.50 高値ドル)  
5 月の NYC 銅相場 5/1 ～ 5/30 (安値セント 301.50～311.90 高値セント)

2018 年 5 月度の LME 現物は、5/1 \$6,777.50 でスタート。5 月度は米国の政策金利の据え置きが確実視されている中で、6 月の利上げ実施の可能性が示唆されるのではとの思惑が浮上し、また米個人消費支出物価指数の上昇率が前年比 2.0% に達したことから、インフレ高進観測も浮上した。また、中国税関が発表した 4 月の貿易統計では、輸出は前年比 12.9% の増加となり、予想外のマイナスとなった 3 月からプラスに転じ、輸入は 21.5% 増加した。米中間の貿易摩擦の懸念が高まっているものの、輸出と輸入はいずれも予想を上回る伸びとなった。LME 在庫も高い水準とまでは言えないが、比較的堅調に推移しており、市場のドル高もあって大きな動きがない状況となった。後半には米中の通商協議に続き、米政府が中国通信機器大手 ZTE への制裁を見直すことで中国政府と大筋合意するなど、米中の貿易戦争への懸念が後退する動きとなっていることなどが、狭いレンジでの動きに留まっている要因と思われる。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 4 月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,008	23,306	+1.3%	23,678	+1.6%	24,124	+1.9%
全世界地金消費	23,059	23,522	+2.0%	23,997	+2.0%	23,447	+1.9%
全世界需給バランス	-51	-216		-319		-323	

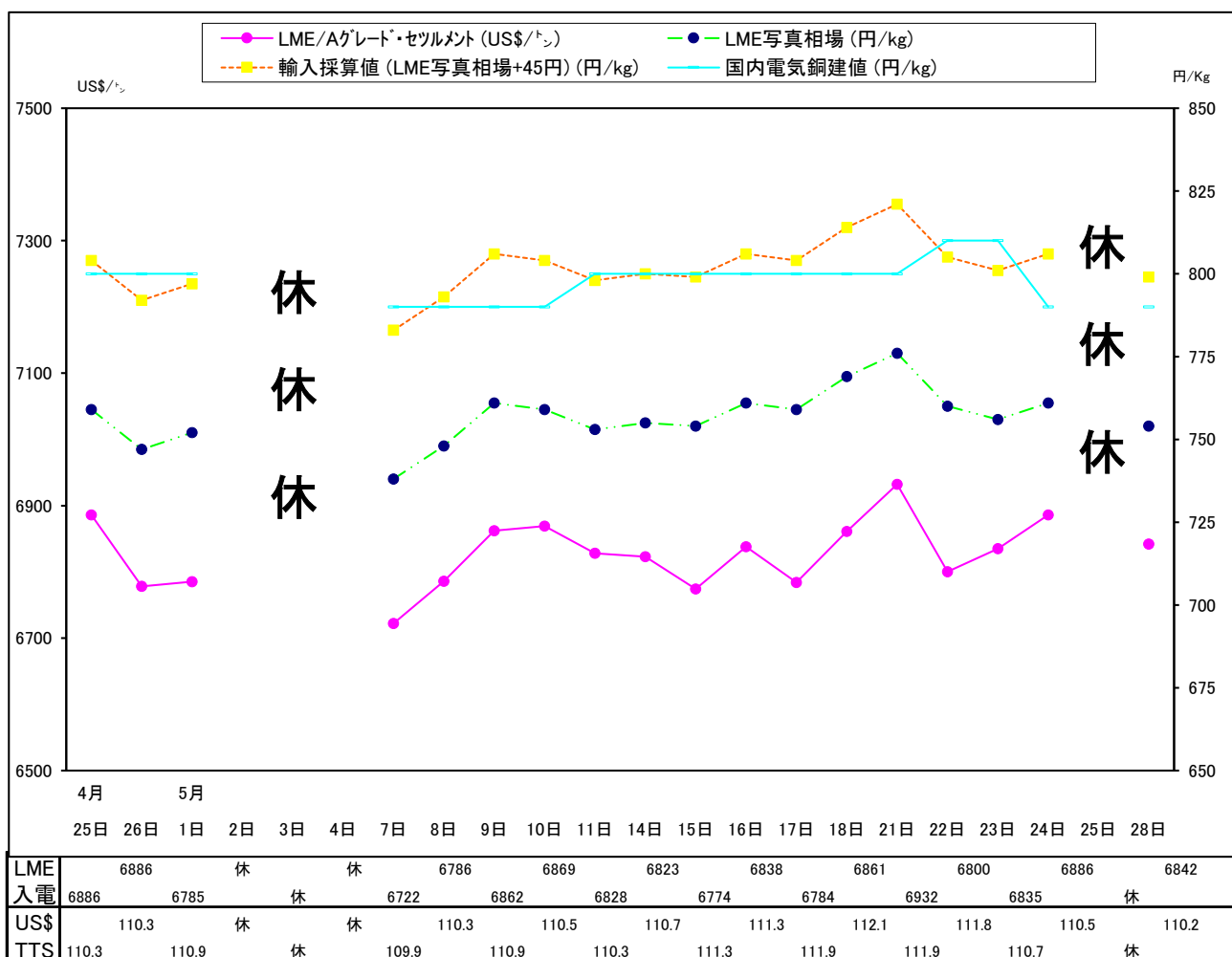
### 先行き短期見通

#### 国内銅価

5 月度の国内建値は 7 日 790 円/kg でスタート。14 日 800 円、23 日には 810 円と銅価の動きが小さい中で、為替要因もあり結果は順調に上げる動きとなった。ただ、月末 29 日には円高による影響で 790 円/kg に下げたところで 5 月度の銅価 (建値平均) が確定となった。

5/30 付 LME \$6,810.00、30 日付 為替 (TTS) 1USD=109.43 円で日本円換算計算値 745 円/kg。2018 年 5 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、790 円の予想です

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年5月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 5月 7日 ~ 382 円/kg
- 5月 10日 ~ 385 円/kg
- 5月 18日 ~ 391 円/kg
- 5月 28日 ~ 376 円/kg

平均384.50円/kg

平成30年5月は上記の通りで前月比 8.50 円/kg の値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	5月	319.00 円/kg	(前月比+	3.00 円/kg)
電気錫 (相対)	5月	3,750.00 円/kg	(前月比+	70.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	5月市中価格	1,750.00 円/kg ~ 1,800.00 円/kg		
銀	4月平均	58,890.00 円/kg	(前月比+	1,240.00 円/kg)
	5月30日	58,610.00 円/kg		
金	4月平均	4,641.85 円/g	(前月比+	91.18 円/g)
	5月30日	4,569.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

平成30年4月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		3月度実績	4月度速報	前月比	前年4月度実績	前年同月比
銅	板	1,336	1,262	-5.5%	1,238	1.9%
	条	23,926	22,727	-5.0%	22,735	0.0%
	管	10,520	10,164	-3.4%	10,673	-4.8%
	棒	2,370	2,401	1.3%	2,428	-1.1%
	線	275	286	4.0%	248	15.3%
黄銅	板	672	607	-9.7%	586	3.6%
	条	9,656	8,571	-11.2%	8,759	-2.1%
	管	665	512	-23.0%	645	-20.6%
	棒	16,187	16,576	2.4%	16,538	0.2%
	線	2,862	2,793	-2.4%	2,553	9.4%
青銅	板	2,939	2,930	-0.3%	2,904	0.9%
	条					
	棒	248	271	9.3%	265	2.3%
	線	70	59	-15.7%	72	-18.1%
洋白・その他	板	503	484	-3.8%	429	12.8%
	条					
	棒	38	42	10.5%	44	-4.5%
	線	457	455	-0.4%	435	4.6%
合計	72,724	70,140	-3.6%	70,552	-0.6%	

4月の伸銅品生産速報は、70,140トンで前月比マイナス2,584トン、前年同月比-0.6%となり、前年同月比が2ヶ月連続でマイナスとなりました。

## 電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の2月分実績及び3月分推定によれば、2月は電力が下げ止まり重い頭をもちあげ、自動車が一桁増を確保、輸出も好調で3部門が伸長した。総計は5万5千626tで前年同月比0.5%増と再び増加に転じた。

3月の銅電線出荷推定を見ると、増加したのは自動車の1部門のみに留まり、6部門が前年を割り込んだ。総計は5万9千100tで同5.9%減少した。特に建設電販が2万6千500tで同6.4%減と伸び悩んだのが響いた。

この結果、17年度(4月～2月分実績、3月分推定)の銅電線出荷量は、通信と電力などの3部門が前年を下回った。しかし、自動車が前年度比10.4%増加したことに加え、主力の建設電販も同0.1%増と僅かにクリアするなど4部門が増加し、総計68万6千600tで同0.9%の微増になり、3年ぶりにプラスに転じた。ただ、14年度の総計72万3千500tとは差が開いている。

一方、2月分の部門別出荷量をみると、マイナスグループは通信、電気機械、建設電販とその他内需の4部門になった。通信はCCPなどの伸び悩みにより前年同月比2.5%減と4ヶ月連続で減。電気機械は家電向けの低下で4ヶ月連続の減。建設電販は当初見込みの本格需要にほど遠く、これも4ヶ月連続の同1.7%減。その他内需は2ヶ月連続で息切れし、同5.9%減少した。

一方プラスグループは電力の同2.4%増、自動車の2ヶ月連続で同13.2%増、輸出は7ヶ月連続で25.8%増と大きく伸びた。

### 2018年2月分(実績)・2018年3月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	2月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	3月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	2月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	779	2.9	▼2.5	800	2.7	▼32.7	1,378	(2.6)	10.8
電力	(1,943)	(57.2)	(29.5)	(2,000)	(2.9)	(▼33.3)	1,267	(23.0)	(35.5)
	4,034	6.6	2.4	4,600	14.0	▼8.3	4,786	12.3	10.6
電気機械	(514)	(41.2)	(22.7)				505	(48.5)	(30.2)
	12,335	6.5	▼1.5	13,200	7.0	▼1.4	17,056	6.2	6.4
自動車	(103)	(41.1)	(43.1)				427	(25.2)	(50.4)
	7,155	12.2	13.2	7,700	7.6	6.4	33,426	13.9	17.9
建設・電販	(16)	(0.0)	(77.8)				14	(▼6.7)	(27.3)
	25,975	4.7	▼1.7	26,500	2.0	▼6.2	30,290	1.1	3.9
その他内需	(35)	(▼38.6)	(▼34.0)	(700)	(4.8)	(15.3)	41	(▼28.1)	(▼25.5)
	4,045	▼4.1	▼5.9	4,300	6.3	▼17.4	6,519	▼2.7	8.4
内需計	(2,611)	(49.5)	(27.2)	(2,700)	(3.4)	(▼25.1)	2,254	(26.4)	(34.7)
	54,323	5.4	0.0	57,100	5.1	▼5.3	93,454	6.6	9.8
輸出	(294)	(▼3.3)	(212.8)	(400)	(36.1)	(2566.7)	141	(▼2.8)	(36.9)
	1,303	▼8.0	25.8	2,000	53.5	▼19.6	4,640	▼13.7	8.8
合計	(2,905)	(41.7)	(35.3)	(3,100)	(6.7)	(▼14.4)	2,396	(24.3)	(34.9)
	55,626	5.1	0.5	59,100	6.2	▼5.9	98,094	5.4	9.7
心線販売	(1,157)	(2.8)	(18.1)	(1,300)	(12.4)	(10.5)	315	(5.0)	(34.0)
	28,017	▼0.1	1.0	29,200	4.2	▼5.3	21,910	0.2	16.0

(注) ( )内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

### 2018年1月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,630	4.1	▼10.4	3,515	13.3	10.4	
巻線	11,426	8.7	2.8	11,668	8.1	11.4	
機器用電線	3,575	3.4	6.4	10,601	3.2	13.1	
通信用電線・ケーブル	1,367	▼0.3	▼6.8	3,121	0.1	▼2.7	
電力用電線・ケーブル	19,808	3.3	0.2	20,256	▼0.6	6.8	
被覆線	9,938	2.9	▼3.9	14,181	▼0.3	1.6	
輸送用電線	5,882	11.0	12.2	34,752	▼88.4	15.0	
銅電線計	55,626	5.1	0.5	98,094	5.4	9.7	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	65	0.0	▼22.6	223	▼0.9	▼26.2
	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,729	▼14.6	8.4	3,206	▼15.5	13.4
	計	2,801	▼14.2	7.5	3,458	▼14.5	9.7
アルミ電線計	2,905	41.7	35.3	2,396	24.3	34.9	
光製品	3,613,091	8.8	▼2.8	20,027	▼2.9	▼16.3	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	3,554	0.8	▼15.2	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

○ 国際アルミニウム地金相場の休み明け第2週は、LME在庫が2万トン超の減少、加えて米国のイラン制裁再開懸念から地政学リスクが高まり、原油価格が急騰、コモディティ全般に上げ圧力がかった状況でスタート。第3週は、相対的に堅調に推移。LME在庫が減少を続けており、若干の上昇機運ではあるが比較的堅調。米金利が上昇を始めておりドル高が進み、メタル価格の上値が抑えられている状況。歴史的に金利高局面は、非鉄相場の下落ではなく、上昇を促す。第4週は、米中通商協議で、関税処置をいったん保留、安心感が広がる中、LME在庫のワラント増加が下押し材料となる。中国政府が自動車輸入関税の引き下げを発表し、リスク選好ムードが高まる。米朝首脳会談が中止と報道されたことで、地政学リスクが意識され、上昇圧力となる。ただ、ルサルール関連の続報で、CEO及び取締役7名の辞任を発表し、制裁解除に向けた期待感が高まる。具体的な動きとなれば、相場は下押しされる。最終週、サウジアラビアとロシアが協調減産の緩和を協議したことを受けて、原油相場が下落、非鉄市場にも波及。また、イタリア・スペインの政情不安拡大によりユーロ安、ドル高が進んでいることも下押し材料となる。北朝鮮の問題が小康状態に入ったかと思えば、イタリア発EU分解危機が始まり、対ユーロで激しくドル高が進み、安全資産である金、円、米国債などにマネーが流入したため金利も押し下げられた。政治問題が続き、メタルは完全に様子見が続いている。当面は\$ 2,250前後での展開を予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年5月積 2,418.00～2,431.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年5月積 283.40～284.90 円/kg
- ・NSP 2018年3月 275.6 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年4月～6月 300.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年3月	'18年4月	'17年4月
月生産	*2,382.0	2,296.0	2,247.0
平均日産	*76.8	76.5	74.9

(\*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

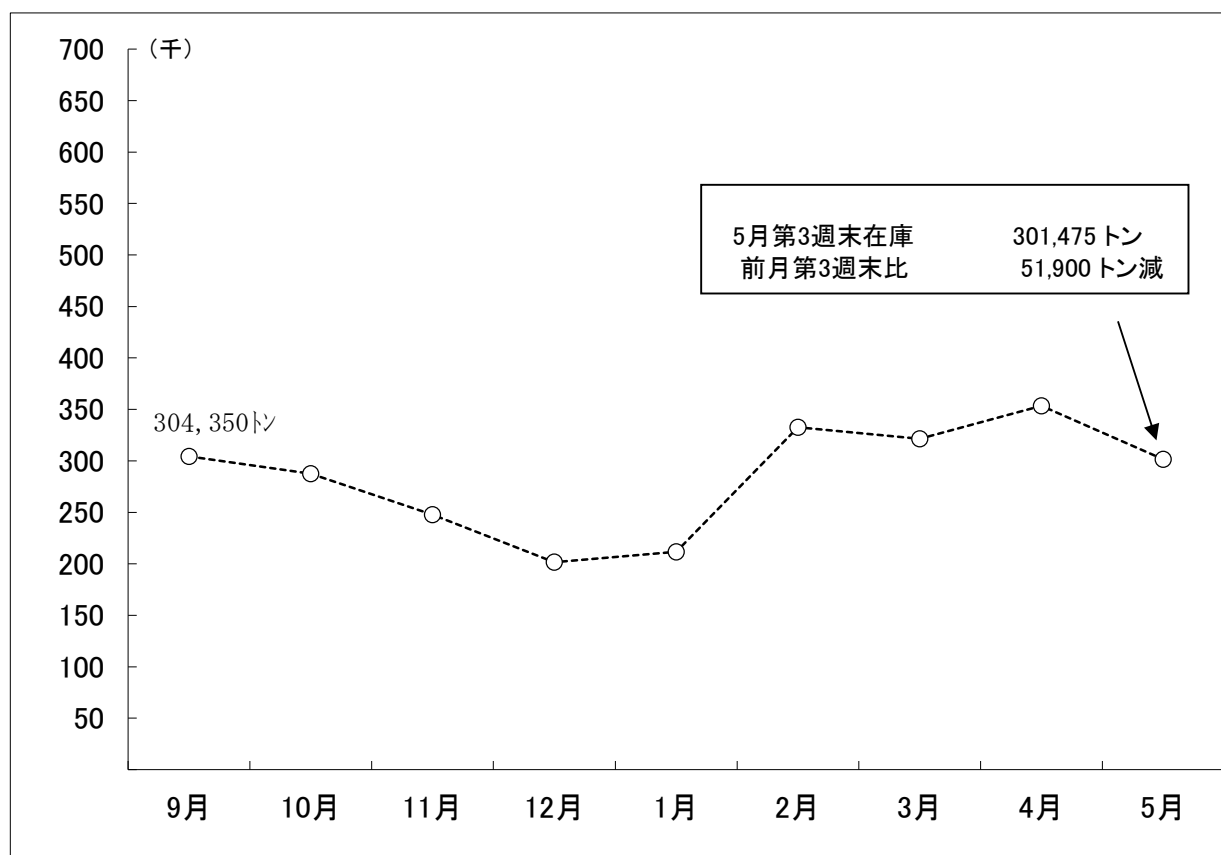
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年1月	2018年2月	増減	2017年2月	増減
横浜	127,000	121,700	-5,300	142,700	-21,000
名古屋	135,100	135,300	+200	125,300	+10,000
大阪	15,000	15,000	±0	14,000	+1,000
合計	277,100	272,000	-5,100	282,000	-10,000

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・ 30年5月18日現在 248,647 S T 前月比 927 S T減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年4月末 105,105 トン 前月比 6,787 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年3月確報 72,724 トン  
 ・ 30年4月速報 70,140 トン 前月比 96.6 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年4月速報 56,900 トン 前月比 96.3 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 30年 3月	板 類	108,439 トン	
	押 出 類	67,784 トン	
		<hr/>	
		176,223 トン	前月比 108.4 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。